

高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発

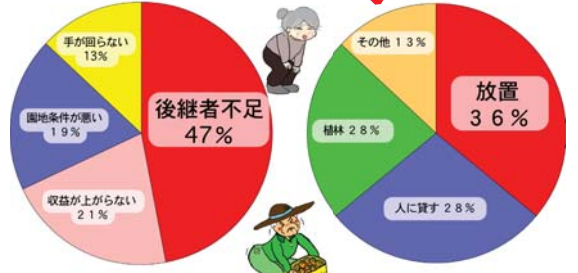
解決したい課題・研究開発目標

【現状と課題】

日本農村の高齢化・重労働の農作業負担による離農。
離農による農地の荒廃や将来の帰農者の受け入れ環境の悪化。



急傾斜で運搬も大変な畑



耕作を辞める理由

耕作を辞めた畑は？

【目指す社会像・研究開発目標】

高齢営農者があと10年長く営農を続けられる状況を作ること、農村コミュニティの衰退・荒廃を抑制。定年帰農や新規参入による活性化策が打てるようにする。

農村コミュニティを
高齢者の 生きがい豊作地帯 (らくらく・楽しく・仕事有り) に！



集落の現状を把握する
集落点検法の開発



高齢者向け「らくらく栽培」
の開発



高齢営農者にやさしい
電動運搬車の開発



営農者の「からだ点検」
+ 怪我の予防体操
(らくらく体操)の開発

対象コミュニティ・関与者

【対象コミュニティ】 奈良県吉野郡下市町柝原地区

【主要な関与者】 奈良女子大学、奈良県農業研究開発センター、三晃精機株式会社、奈良高専、下市町



下市町柝原地区

6集落(大塔家・西坊・中村・下村・奥垣内・朝日ヶ丘)

人口281人 世帯数83戸(うち専業農家33戸)

高齢化率34%

柿栽培面積 100ha

20度に達する急斜面が多い古くからの畑が8割

ほとんどの住民が、延喜式に載る「波比売神社」の氏子で、10月の大祭など伝統行事を村で伝承している。

プロジェクトを通じた主な成果と今後の展望

JST戦略的創造研究推進事業
(社会科学研究開発)
コミュニティで創る新しい
高齢社会のデザイン
科学技術振興機構 RISTEX



奈良女子大学
奈良県農業研究開発センター
三晃株式会社
国立奈良高等
下市町

地域の生業の新しい拠点組織
農事組合法人旭ヶ丘農業生産販売協同組合 旗上げ！

**旭ヶ丘農事組合法人
旭ヶ丘農業生産販売協同組合**

「らくらく農法で生涯現役」
江戸時代から前原地域柿の産地として栄え「葉すし」という品種があるくらいです。特に、私たちが柿の中でも渋柿の葉を中心に柿の産地周辺の産地に柿の葉だけの生産をしており、産地については「葉すし」を産出する柿の葉の数を制限し、4月に1回の柿の葉の収穫に止め、その後は柿の葉は一切せず、色、つやを揃えて「らくらく農法」で育てています。

**柿葉生産者9名が参加
地元柿の葉すし業者と提携。
平成26年までで
72万枚を販売！**

大変な農作業をがっちり助け、高齢者でも扱いやすい
電動運搬車「らくらく号」完成！

最大120kg積載のパワフルなクローラータイプとコンパクトで扱いやすい一輪車タイプが完成。一輪車は強力な投光機付き！

Sさん(83歳)も、辞めようと思っていた畑を「らくらく」でもう少し頑張ってみることに。
更に3名、柿葉栽培で農業を続ける人が出ました！

一輪車タイプを下市町で12台導入。栃原地区自治会で管理し、地区の住民にレンタルするサービスが始まりました。

農作業で疲れた身体を効果的にほぐす「らくらく体操」DVDが完成！

DVD内容
○解説編
○ストレッチ編
○みんなで体操してみました！

地域の状況を掘り起こし、わかりやすく提示する、「集落点検法」を確立、点検マニュアルを作成しました。

従来の地方行政では把握できなかった他出者の動向や、地域で埋もれつつあった郷土食の発掘や祭りでの再現など、地域力向上に貢献しました。

「みんなで体操してみました！」編では、栃原の皆さんや、奈良県庁、下市町役場、奈良女子大などの関係機関総出で行いました。

下市町では、「集落点検法」の手法を活用し、栃原地区以外の地域での調査を開始、町政に活用しています。

更に、本成果は、様々な波及効果を生み出しつつあります。

トルコ共和国で成果発表(2014.10)

下市町新B級グルメ「ごんた餅」の開発

下市町が第2回プラチナ大賞優秀賞受賞！

お問い合わせ先
担当者名:寺岡伸悟
連絡先:
奈良女子大学
〒630-8506
奈良市北魚屋西町
Tel:0742-26-0685
E-mail:tera@cc.nara-wu.ac.jp

様々な媒体で成果を披露